

手術後の注意事項

1：体調管理

手術は患者さんに侵襲(外科的なダメージ)を与えます。

当院では、侵襲を少なくするように手術を工夫したり、事前にお薬を使って、その侵襲によってさらに体調が悪化したりする事を防ぐように対策しています。

手術に大きな問題がなく、患者さんの安静がある程度可能であれば、手術当日か翌日の退院を提案推奨しています。しかし、侵襲による影響は数日経ってから徐々に出てくることもあります。

翌日にも食欲が戻らない、ぐったりしている、体温が明らかに高いor低い、嘔吐がある、

24時間以上排尿しない(手術後に病院ではほぼ全例で排尿をさせています)

以上の症状がある時は様子見をせずに、当院か、かかりつけ病院様の受診をお願いします。

2：傷口の保護

傷口は大きな問題がなければ、14日程度で抜糸が可能です。それまでの間はエリザベスカラーの装着をお願いします。術後服も問題ありませんが、確実性としてはエリザベスカラーに劣りますのでお勧めはしていません。

エリザベスカラーで食欲や元気がなくなる犬猫もいますので、ご家族が様子を確認できる、再装着が可能、目を離す時は必ず再装着する上記をお約束して頂ければ、外していただいても結構です。

特に猫で多いのが、器用に体を折り曲げて傷口を舐めたり、エリザベスカラーのフチで傷口を掻いたりすることがあります。傷口や周辺の皮膚の異常に気付かれた際には、すぐに病院へご連絡ください。大きいサイズのカラーと交換いたします。

長毛の犬猫で多いのが、エリザベスカラーの装着によって顎下に皮膚炎を起こすことがあります。ご自宅ではこまめに清潔なタオルで清拭するか、上記注意事項を確認の上で、エリザベスカラーを外してあげてください。

包帯を巻いている症例の場合は、包帯がずれた場合、汚れがあった場合、痛がる様子が続く場合、足先が腫れている場合には、すぐに当院かかかりつけ医様にご連絡して下さい。

特に足先が腫れている場合には、浮腫によって足先が絞扼されていることもあるため、夜間や動物病院と連絡がつかない場合には、一層ずつ外側から外して下さい。

3：安静

ごく一部の手術を除き、安静管理が手術後には必要です。

原則はある程度の大きさ(退院時にお伝えします)のケージやサークルから出ないようにして下さい。あるいはそういったケージ内では興奮するようであれば、リビングや狭い部屋で活動性が落ちるように安静管理を工夫して下さい。猫の場合は高さのない、平面での生活にして下さい。

シャンプー・トリミング・お散歩は1ヵ月間禁止しています。(手術部位が汚れた際には、濡れたタオルや軽いシャワーで汚れを落として下さい)

排泄の際だけ、5-10分程度のリードを短く持った歩行を許可しています(排泄の有無に関わらずこの時間で終了して下さい)。

階段の昇り降りなどの段差や滑る床での歩行も厳禁です。

手術に使用した金属の破綻や骨折、別の足に問題を引き起こす可能性があるため、必ず守って下さい。

(2024.10)

